

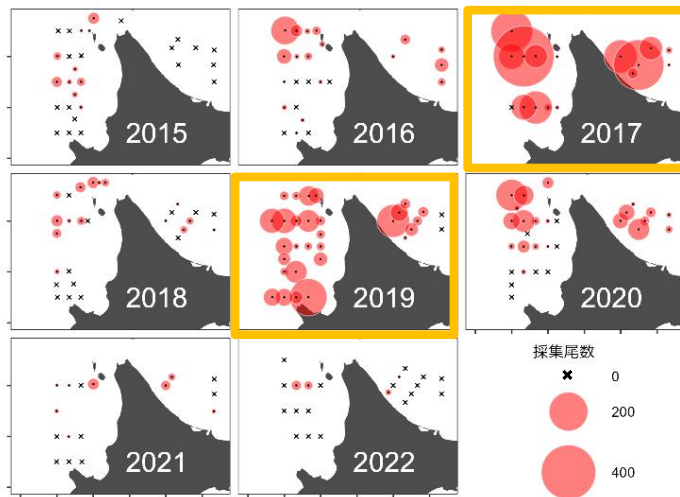
道産ホッケの資源管理技術の高度化

背景

漁業者による資源管理の効果を確実にするため
管理技術の高度化が必要

成果

1 調査船による稚魚採集調査



その年に生まれた資源の多寡を早期に把握
→ 漁業者説明会などで周知

期待される効果

漁業者が主体的に取り組む資源管理の推進により資源のさらなる回復が期待される。

実施機関（協力機関）：中央水産試験場、稚内水産試験場、函館水産試験場、網走水産試験場、釧路水産試験場、
（北海道大学）

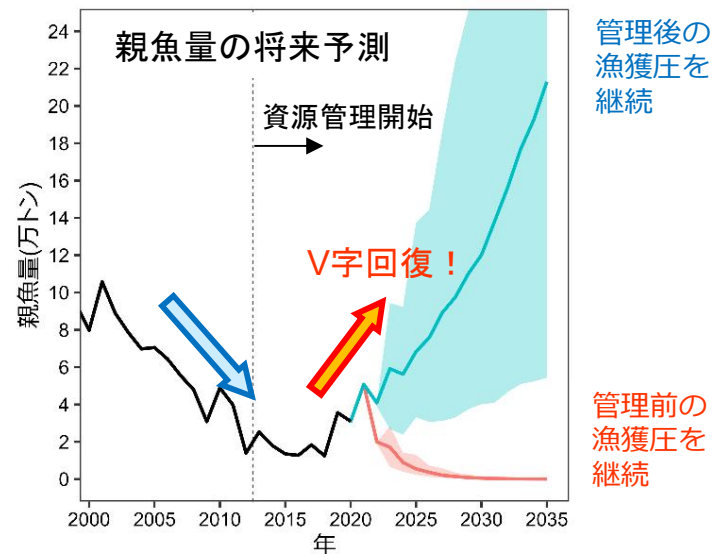


稚魚採集ネット



試験調査船 北洋丸

2 資源管理の効果予測



漁業関係者で管理対策を検討・実践
→ 未成魚への漁獲圧を減らすことにより
資源回復を実現

3 産卵場の見える化

